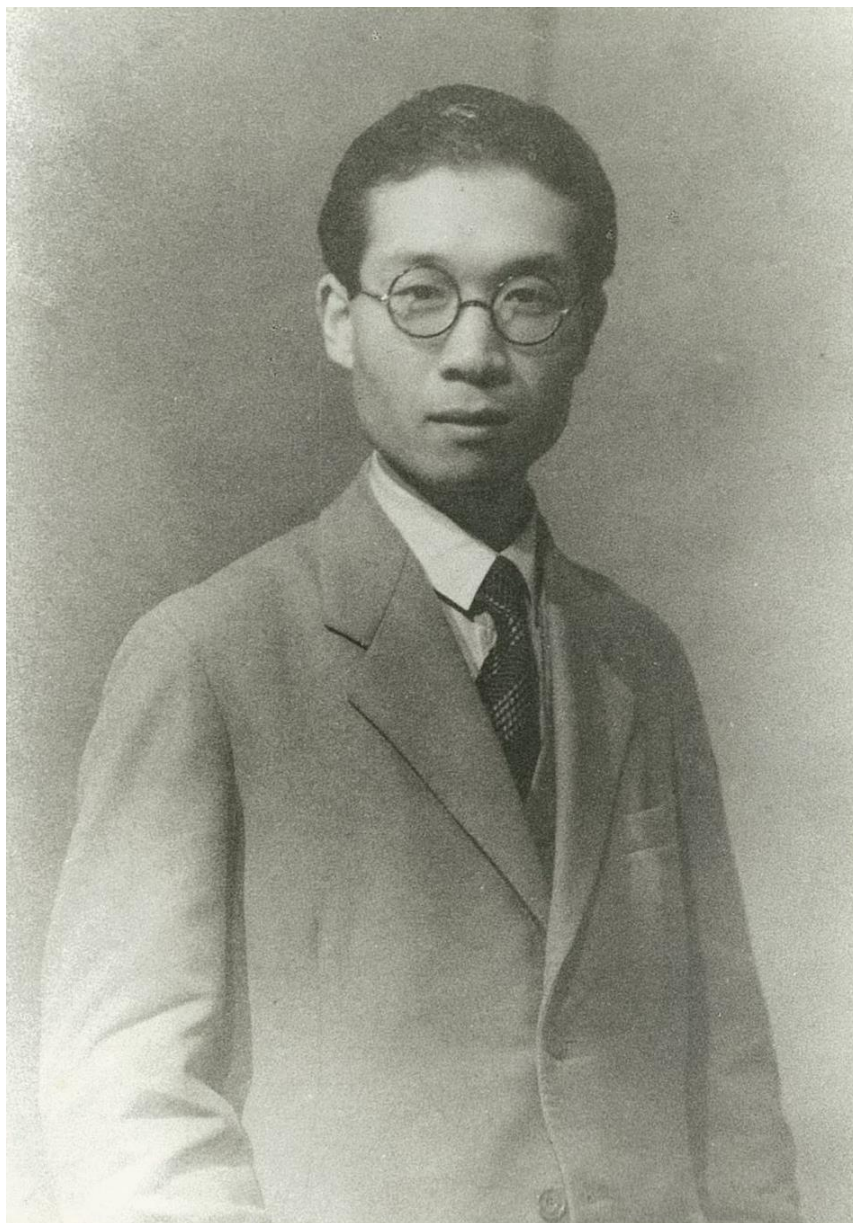


# 肥沼 信次



写真提供：松尾 奈津子氏

1945年(昭和20年)、第二次世界大戦終戦直後、日本から遠く離れたドイツでは爆撃

などにより破壊されたまちで伝染病が流行し、その治療のために命を捧げた

日本人がいました。八王子で生まれ、医学の勉強をするためにドイツへ渡った肥沼

信次です。

## こえぬまのぶつぐ お た 肥沼信次の生い立ち

こえぬまのぶつぐ ねん めいじ ねん がつこのか げんざい どうきょうとはちおうじし う げん かい  
肥沼信次は、1908年(明治 41年)10月9日、現在の東京都八王子市に生まれました。外科医  
ちち うめさぶろう はちおうじし ない こえぬまいいん ひら うめさぶろう ちやうなん のぶつぐ じぶん  
の父・梅三郎は、八王子市内に肥沼医院を開いていました。梅三郎は長男である信次に自分  
あと つ かんが きやういく いしゃ ちちおや ちか  
の後を継いでほしいと考えて、教育にはきびしかったそうです。医者である父親を近く  
み こえぬま しょうらい じぶん いしゃ おも  
で見てきた肥沼は、将来は自分も医者になりたいと思うようになっていました。また、ア  
インシュタインやキュリー夫人を尊敬しており、14歳のころにはアインシュタインのいる  
ドイツに渡って医学の勉強をしたいと思うようになりました。

こえぬま だいさんじんじやうこうとうしやうがっこう げん だいさんしやうがっこう どうきょうふりつだいにちやうがっこう げん とりつ  
肥沼は、第三尋常高等小学校(現・第三小学校)から東京府立第二中学校(現・都立  
たちかわこうとうがっこう しんがく しょうがくせい さんすう にかて こえぬま きほん  
立川高等学校)へ進学しました。小学生のころ、算数が苦手だった肥沼は基本からしっか  
り勉強しなおしたことで、中学では得意科目となり、学校内でも評判でした。日本医科  
だいがく そつぎやう すうがく しゆみ す  
大学の卒業アルバムには、数学を趣味としてあげるほど好きになっていました。

## りゅうがく せかいじやうせい ドイツ留学と世界情勢

ねん しょうわ ねん にほん い かいがく そつぎやう どうきょうていこくだいがく げん どうきょうだいがく いがくぶ  
1934年(昭和9年)、日本医科大学を卒業後、東京帝国大学(現・東京大学)医学部  
ほうしやせんいがくきやうしつ はい ほうしやせん けんきやう いがくきやうしつ なかま けんきやう  
放射線医学教室に入り、放射線の研究をします。医学教室の仲間とともに3つの研究  
ろんぶん か なか りゅうがく はなし こえぬま ちちおや いいん あとつ  
論文を書きあげる中、ドイツ留学の話が肥沼にきていました。父親は医院の跡継ぎにし  
たいと考えていたので留学に反対しましたが、肥沼の強い希望もありドイツ留学が決ま  
ります。そして、1937年ベルリン大学放射線研究所の研究員になりました。憧れの地で  
あったドイツでの研究の日々は充実したものであり、たくさんの優秀な論文も書き上げ  
ました。

ドイツに渡って2年後、1939年にドイツがポーランドを攻撃し、第二次世界大戦が起こり  
ます。当時、日本はドイツと同盟を結んで  
れんごうぐん しんこう ばくげき はげ  
いました。連合軍が侵攻し、爆撃が激しさを  
ま ねん がつ にほんたいしかん  
増してきた1945年3月、日本大使館はベ  
ルリンにいる日本人に帰国するように言  
いました。しかし帰国する当日の集合  
ばしよ こえぬま  
場所に肥沼はきませんでした。その後ベル  
リンを離れ、肥沼はブランデンブルク州の  
エーベルスヴァルデに避難しました。



写真提供：松尾 奈津子氏

## ヴリーツェン伝染病医療センター

1945年（昭和20年）5月、ドイツは連合国に敗戦しました。肥沼が避難したエーベルスヴァルデから約40キロのところにヴリーツェンというまちがあります。ヴリーツェンはポーランドとの国境に近いドイツ北東部に位置する都市です。爆撃などでまちは壊され、水道も使えず、とても不衛生な状態でした。戦いが終わりポーランドから戻ってきたドイツ人もまちに多くいました。そのため、発疹チフスやマラリアの伝染病が難民・住民たちに急速に広がりました。9月ソ連軍地域司令部の司令官は肥沼を呼び寄せ、ヴリーツェンの伝染病医療センターの責任者に任命しました。センターには伝染病で苦しむ人があふれていました。自身にも感染する恐れがありましたが、肥沼はひとりひとりに寄り添い治療を行いました。治療のための薬や道具が足りなくなると、自ら集めて回り、周辺の村にも治療に向かいました。しかし、ついに肥沼自身もチフスに感染してしまいます。それでも患者を優先し、懸命に治療を続け、1946年3月8日に37歳の若さで亡くなりました。

## その後…

ドイツでの肥沼の活動が日本で知られるようになったのは1989年（平成元年）、朝日新聞の「尋ね人」の欄に肥沼のことが掲載されたことがきっかけでした。弟の栄治さんがその記事を知ることになり、ヴリーツェンの人々と遺族の間で情報交換をすることができました。栄治さんは、ヴリーツェンの人々によって大切に守られてきたお墓を訪ねたり、ヴリーツェンに桜の苗木を贈るなどの交流を行いました。肥沼博士はその功績を讃えられて、1994年にヴリーツェン市の名誉市民に選ばれています。そして、2017年には八王子市とヴリーツェン市は友好交流協定を結び、両市の交流が続いています。

西放射線ユーロードには  
「Dr. 肥沼の偉業を後世に伝える会」  
を中心に全国のみなさんからの  
寄付で建てられた顕彰碑があります。



## 調べてみましょう

ひとつのテーマについて調べる時、何冊かの本を調べることは、とても大切なことです。次にあげる参考文献は、市内の図書館にある本です。児童図書や参考図書など、さまざまなものがあります。調べたい内容から自分で図書を選び、まとめてみましょう。市内のどの図書館に所蔵しているかは館内OPACで検索、または職員へおたずねください。

(☆印のついているものは、小学生におすすめのものです。)

☆『ドクター肥沼ものがたり』 2019年 田中尚子 絵本

☆『ドクター肥沼ものがたり』 2018年 田中尚子 紙芝居

(上記の資料は形態が異なりますが内容は同じです。)

『日独を繋ぐ“肥沼信次”の精神と国際交流』 2017年 川西重忠

☆『ヴリーツェンの風のなかで』 2015年 なかむらちえ

(わかりやすいやさしい文章で書かれた絵本です。)

☆『世界にはばたく日本力 日本の医療』 2010年 こどもくらぶ

(世界に知られる日本人を紹介しています。)

『ドイツ人に敬愛された医師・肥沼信次』 2003年 舘沢貢次

『日本人の足跡3』 2002年 産経新聞「日本人の足跡」取材班

『大戦秘史・リーツェンの桜』 1995年 舘沢貢次